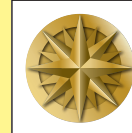


2021.2

# 企業診断ニュース

別冊 Vol.12

変革する中小企業のナビゲーター，中小企業診断士



11	月	4	日	は
中	小	企	業	
診	断	士	の	日

## 県協会のご紹介

## 会員診断士からのメッセージ

## 地域別にみる中小企業診断士アンケートデータ



## 巻頭のご挨拶

- 1 『企業診断ニュース』別冊 Vol.12 の発行にあたって 米田 英二

## 県協会のご紹介

- 2 中小企業診断協会北海道  
 3 宮城県中小企業診断協会  
 4 群馬県中小企業診断士協会  
 5 埼玉県中小企業診断協会  
 6 千葉県中小企業診断士協会  
 7 東京都中小企業診断士協会  
 8 神奈川県中小企業診断協会  
 9 京都府中小企業診断協会  
 10 兵庫県中小企業診断士協会  
 11 香川県中小企業診断士協会  
 12 愛媛県中小企業診断士協会  
 13 福岡県中小企業診断士協会

## 会員診断士からのメッセージ

- 14 大阪府中小企業診断協会 五味 義也  
 16 京都府中小企業診断協会 佐藤 智美  
 18 東京都中小企業診断士協会城南支部 地引 智美  
 20 長野県中小企業診断協会 白井 郁也

## 特集

- 22 地域別にみる中小企業診断士アンケートデータ  
 ～独立・副業、コンサルティング活動日数、コンサルティング報酬、年間売上～  
 東京都中小企業診断士協会城北支部 福島 正人  
 東京都中小企業診断士協会中央支部／埼玉県中小企業診断協会 末廣 秀樹

## 中小企業診断士チャンネルを公開中!

一般社団法人中小企業診断協会では、「中小企業診断士の仕事」PR動画の最優秀賞に選定された作品等をご覧いただける中小企業診断士チャンネルをYouTube上に公開中です。チャンネル登録のうえ、ぜひご覧ください。  
[https://www.youtube.com/channel/UCkxT\\_hUwdl0f09C23GiJDQ](https://www.youtube.com/channel/UCkxT_hUwdl0f09C23GiJDQ)



令和3年2月1日発行

編集発行人:野口 正  
 印刷:株式会社エーカーズ

本誌掲載の論文ならびに資料の掲載は当協会の承認を要す

# 『企業診断ニュース』別冊 Vol.12の 発行にあたって



一般社団法人 中小企業診断協会  
会長  
米田 英二

昨年は、思いもよらぬ新型コロナウイルスの感染拡大のため、皆様も自粛を余儀なくされ、何かと不自由な一年だったのではないかと思います。本年が新型コロナウイルスを克服し、日本の将来の礎を築く年となることを心より願っております。

さて、一般社団法人中小企業診断協会では、皆様にご愛読いただいております機関誌『企業診断ニュース』の別冊 Vol.12を発行いたしました。これは、当協会のブランディング戦略の一環で、中小企業診断士の知名度向上に向けた取組みの一つとして実施するものです。

中小企業診断士実務補習の受講者の皆様をはじめ、行政や中小企業支援機関、地域金融機関、大学や連携する他土業の皆様、私どもの都道府県協会における職域拡大の取組みや、所属する会員中小企業診断士に対する人材育成事業等の特色ある活動について、広くご理解いただくことを目的としております。今回は、企業内診断士として、さまざまな形で資格を活用する会員中小企業診断士からのメッセージ等も掲載しております。

当協会では11月4日を「中小企業診断士の日」と制定し、その前後一週間程度を目安に、各都道府県協会ともどもイベントの開催を中心として、中小企業診断士のPR活動を実施してまいりました。中小企業診断士一人ひとりの地道な自己研鑽が前提となりますが、今後もこの取組みに注力し、中小企業診断士のブランディングに大いに寄与するものと期待しております。

現在、多くの中小企業・小規模事業者が大変な苦境の中にあります。緊急経済対策の実行面において、中小企業診断士の果たすべき役割は大きく、この国難を乗り越える上で大きな力を発揮することを願っております。

本誌が、中小企業診断士や私どもの都道府県協会へのご理解の促進に少しでも役立ちましたら幸いです。

令和3年2月

### プロコン・企業内診断士向けのイチ押し！の活動

#### ◆立場を超えてつながり、視野を広げるSDGs研究会

SDGsに本気で取り組むには、とてつもないエネルギーが必要です。ヒト・モノ・カネのいずれにも余裕のない中小企業では、売上アップのようなわかりやすい目標が立てづらいSDGsに二の足を踏んでしまうことも多いと思います。しかし、小回りの利く中小企業にとってこそ、SDGsがチャンスになり得ると思うのです。

「問題なのは、頼れる相談相手がまだまだ少ないという現状なのでは？ ならば、我々がそのポジションになろう！」という

ことで2019年6月に発足したのが、「中小企業診断協会北海道 SDGs研究会」です。

プロコンも企業内診断士も、ベテランも若手も、男性も女性も、皆がそれぞれの立場からSDGs、そしてSDGsを企業経営に取り入れるSDGs経営について、日夜議論を交わしています。立場も年齢も違う相手と真剣に話し合うことで、いかに自分のものの見方にバイアスがかかっているかに気づかされます。

幸か不幸か、コロナ禍でオンラインミーティングが当たり前になったことを活かし、月に一度の例会では、札幌市環境局のご担当者様や、道外でSDGs経営コンサルタントとして活動する中小企業診断士の方をゲストにお招きし、ご講演をいただいています。

発足から1年あまり、ようやく企業診断に活用するケースも出てきました。また、SDGsに関するセミナーも行っています。

百社百様の企業の困りごとを聞いて一緒に悩み、時には取引先や金融機関、自治体とも手を携えて解決にあたる——このような中小企業診断士の活動に、SDGsの「接着剤」としての役割が期待できるのではないのでしょうか。

中小企業診断士とSDGs、そのテリトリーは重なっている。中小企業診断士がSDGsに精通すれば、もっと世の中のためになる企業支援ができる——そのような思いから、当研究会では、SDGsについて基礎から学べるWebサイトを開設しました。できたてホヤホヤですが、これからどんどん中小企業診断士の皆様にも役立つ情報をアップしていきますので、ぜひご覧ください。

道外でSDGsに関する活動を行っている中小企業診断士の皆様、あるいはそうした研究会の皆様、広大な大地と海、豊かな自然環境に恵まれた北海道の研究会とコラボしませんか？ ご連絡は、中小企業診断協会北海道 SDGs研究会のHP (<https://shindan-hkd.org/lab-sdgs/>) まで！



# 宮城県中小企業診断協会

地域に根差した、活きる経営支援を身につけることを目指しています！

## プロコン向けのイチ押し！の活動

当協会では、会員の専門知識の研鑽・向上を目的とした業種ごとの研究会があります。現在は事業承継研究会、介護福祉事業研究会、農業経営研究会、産廃業経営診断研究会、食品MD研究会の5つの研究会があり、研究会員相互のレベルアップと専門技能を活かした業務受託を行っています。

令和2年度は活動を見合わせていた期間もありましたが、現在はオンライン・オフラインを組み合わせた形で活動を実施しています。

研究内容については、当協会の会報「診断みやぎ」への掲載のほか、地域の事業者様向けにセミナーを開催し、その経営力向上の支援のために発表会を行っています。

## 企業内診断士向けのイチ押し！の活動

当協会では、協会主催の研修交流会を、企業内診断士の皆様も参加できる形で開催しています。会員を講師に招き、各会員が活躍している業界の最新情報の紹介・共有や、今後独立を目指す方及び独立して間もない方向けに、診断スキル向上のための「コンサルティング・はじめの一步」シリーズの研修を開催してきました。

令和2年度からは新型コロナウイルス感染防止策として、ソーシャルディスタンスを十分に保った広い会場で開催しています。

先日行われた令和2年度第1回の研修交流会では、「まちづくりと商業活性化」をテーマに、歩行者利便増進道路（通称：ほこみち）制度を活用した「今後のまちづくりと商店づくり」についての研修を行いました。

今後も、旬の情報提供や経営支援に役立つ研修を開催してまいりますので、多くの会員の皆様のご参加をお待ちしています。



令和元年度研修会の模様

宮城県中小企業診断協会HP <http://shindan-miyagi.jp>

# 群馬県中小企業診断士協会

## 4委員会の事業高度化への取組みと事務局のサポートにより、会員活動を支援

### プロコン向けのイチ押し！の活動——事業委員会/事業承継事業部会

#### ◆群馬県事業承継ファーストサポート事業

当協会では、群馬県独自の事業承継サポート事業を受託して3年目になります。事業承継事業部会で実施している2つの事業を以下にご紹介します。

##### 1. 「事業承継ファーストサポート事業」

支援機関が選定した中小企業に対して、承継に向けた課題を整理し、対策の提案と個別企業に適した各種支援制度の紹介、つなぎを行います。3年間で約80社の支援を行いました。



##### 2. 「事業承継支援スキルアップ研修」(2回/4日間開催：当協会と群馬県の共催)

部会員の中小企業診断士3名が講師を担当しました。2020年11月に開催した第1回の受講者は、県内支援機関の職員、土業等専門家(弁護士等)等32名。2日間のプログラムで、1日目は①事業承継の全体像と支援施策、②事業承継の課題と係る対応策を、2日目は①事業承継支援の進め方と留意点、②事例演習(親族内承継、従業員承継の2事例)を、それぞれ行いました。

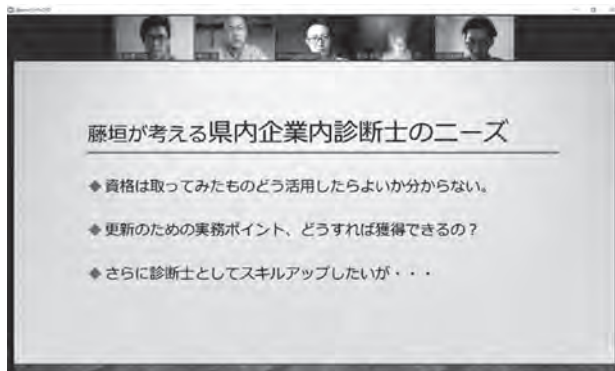
第2回は、令和3年1月に開催する予定です。

### 企業内診断士向けのイチ押し！の活動——研究開発委員会/企業内診断士活躍研究会「企活研」

#### ◆企業内診断士のサードプレイスとして活動！

当研究会は、企業内診断士の「悩み相談の場」「勉強の場」「活躍の場」を創ることを目的に発足し、有志の企業内診断士が集まって月に1回、Web定例会を行っています。参加メンバーは税理士事務所、銀行、公務員、企業等に勤務し、副業や将来の独立等を考えており、参加目的はさまざまです。

定例会では、企業内活動において生じた悩み・疑問の共有、講師を招いての勉強会、さらに各自の持ち込み企画や相談案件について、会員の知見をもとに相互に助言・支援を行ったり、持ち込み診断案件を有志で共同受注してプロコンの指導を受けるなど、企業内診断士の活躍の幅を広げる「サードプレイス」となっています。



# 埼玉県中小企業診断協会

## 実践重視の研究会活動

### プロコン向けのイチ押し！の活動

#### ◆埼玉県経営革新計画策定支援プロジェクト

埼玉県では、経営革新計画の策定を通じて県内産業の振興を図っており、平成27年度以降、承認件数は5年連続で日本一となっています。

当協会では、支援機関よりプロジェクトとして運営事務局（7名）が依頼を受け、登録しているメンバーから案件に沿った最適な人選を行っております。現在、60名以上のメンバーが登録されていますが、支援可能地域・業種、また得意分野、職歴・実務経験やPRなどをリスト化しています。

特徴的なのは、事務局として事業計画書の品質保証を行っている点です。提出前にテーマの適切性や実現性、数値計画での算出根拠、実施日程などを、事務局で事前に確認しています。

また、近年は独立する人も多く、経験の浅いメンバーに対しては勉強会を開催するほか、サブ支援者として同行により経験を積んでもらうことで、安心して参画できる体制をとっています。本活動を「プロコン向けのイチ押し！の活動」としてお勧めします。



サブ支援者と共に経営者と面談

### 企業内診断士向けのイチ押し！の活動

#### ◆さいたま実践経営塾～地元経営者とともに学び・交流する場～

さいたま実践経営塾は、埼玉県川口市で中小企業経営者と中小企業診断士を会員に毎月開催し、2021年1月で50回目を迎えます。

会員講師による実践的なテーマの研修で、経営者の経営能力向上だけでなく、講義後のディスカッションを通して、中小企業診断士が経営者の支援ニーズを把握し、より実践的な支援力向上を目的としています。

2020年3月以降は、新型コロナウイルス感染症対策として、会員のITコーディネータの協力で講師と会員にZoom研修サポートを行い、オンライン開催を続けています。Zoom開催により、遠方から参加する会員も増えています。

研修テーマも、SDGsや事業承継など一般的なテーマだけでなく、企業内診断士の「実録テレワーク」や「実践Zoomセミナー成功術」「これからの人材育成」など、新型コロナウイルス感染症に対応した経営力・支援力向上を目指して活動を続けていきます。



オンライン開催の研究会

# 千葉県中小企業診断士協会

## ボランティアを通じてスキルアップ!実務従事ポイントも獲得!

### 企業内診断士向けのイチ押し!の活動

#### ◆「企業内診断士におけるプロボノ活動の支援に向けた実証実験事業」

当協会では千葉県中小企業団体中央会の支援を受け、一般社団法人中小企業診断協会の「企業内診断士におけるプロボノ活動の支援に向けた実証実験事業」に参加しています。

今年度で3回目の参加となり、会員の間でも少しずつ認知度が上がってきており、各回4名程度の募集に対して、1回目3名、2回目9名、3回目11名と希望者が増えています。

会員にとっては、①ボランティアを通じて診断先から喜ばれる（中小企業診断士として一番の喜び）、②プロの中小企業診断士から直接指導を受けられる、③無料で実務従事ポイントを獲得できる、というメリットがあります。

また当協会にとっても、①企業内診断士の活性化・スキルアップ、②ボランティア活動を通じた社会貢献、③中小企業診断士・当協会の認知度アップとブランディング、というメリットがあります。

さらに診断先からは、「普段はなかなか聞くことができない外部の声を無料で聞くことができ参考になった」「早速試してみたい」「環境変化が激しい中、改革のきっかけになった」など大変喜ばれています。

このように、本事業に参加することは、まさに「三方よし」なのです。

参加人数が増えることにより、一般的には役割分担や意見や提案をまとめることが難しくなりますが、外部環境チームと内部環境チームに分けることにより、参加者の役割を明確にしつつうまく一体化できるよう工夫しながら運営しています。

診断先はショッピングセンターや道の駅などですが、今までに実施してきた3回とも、診断先を利用するお客様へのアンケート調査を実施しています。これも、参加者が増えることにより回収できるアンケートの枚数が増え、診断先に生の声をお伝えできています。今年度は、仕入れ先等の診断先取引関係者にも調査を行い、診断先から大変喜ばれました。

「診断士資格を取得しても、実務従事ポイントを取得できるか不安」という声はよく聞きますが、当協会では本事業をはじめ、会員の方がそのような不安を払拭できるようにさまざまな取組みをしています。ぜひ当協会に入会して、我々の仲間になりませんか？



いわし丼が美味しい“道の駅オライはすぬま”



# 東京都中小企業診断士協会

## 会員サービスの一層の向上に取り組んでまいります！

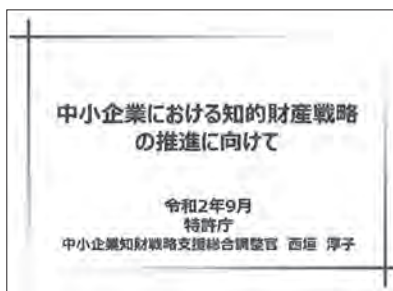
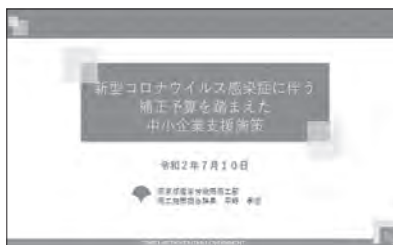
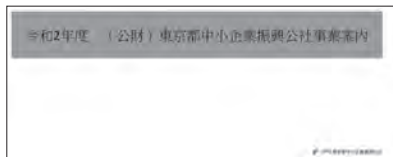
### プロコン・企業内診断士向けのイチ押し！の活動

#### ◆会員へのeラーニングの提供

当協会では、昨年度よりeラーニングを導入しています。時間や場所にこだわらず受講できるeラーニングは、広く同じ内容を会員に周知徹底する研修に適しており、リアルの研修に参加できない会員からも好評を得ています。

本年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により集合研修の制約がある中、東京都や東京都中小企業振興公社の施策の紹介を行いました。また、中央官庁と地理的に近い当協会の長所を活かし、全国一律に発信すべきテーマの発掘をしていきたいと考えております。

その第一弾として、特許庁をお願いし、「中小企業の知的財産戦略の推進について」を収録しました。今後、全国にも発信していきたいと考えておりますので、ぜひ皆様の診断士活動にお役立てください。(右図はeラーニングで用いている資料の一部です)



#### ◆会員への「kintone」導入

当協会では本年度、「会員向け情報提供の推進」「本部と支部を含めた協会活動支援機能の強化」の事業方針のもと、サイボウズ社のkintoneを共通ツールとして導入し、全会員に個別の「ID」を付与して活用を開始しました。

当協会の「中小企業診断士の日」イベントにおいては早速、中小企業診断士川柳の会員投票にkintoneを活用し、会員から多くの投票をいただきました。そのほかにも、「会議日程」や「協业内稟議システム」の運用など活用の幅が広がっております。(右図はkintoneのポータル画面とスケジュール画面の一例です)

今後はkintoneを通じ、前述のeラーニングの活用や各部各研究会の報告書などのアーカイブ、100以上ある研究会および各支部の研究会情報の共有など、会員にとって有益な情報提供を実現し、会員サービスの一層の充実を図り、会員の皆様に満足していただけるよう努めてまいります。



# 神奈川県中小企業診断協会

会員に対し、さまざまな実践の場を提供

## 企業内診断士向けのイチ押し！の活動——神奈川県中小企業診断協会

### ◆「中小企業診断士の日」フェスタ

11月4日は「中小企業診断士の日」。当協会では、横浜そごう前地下広場でフェスタを行いました。本イベントは、毎年運営委員を公募。企画から準備、当日の経営相談まで、運営委員全員でミーティングを重ねてアイデアを出し合い、実施しています。

2020年度の運営委員は8名で、内訳は企業内が5名、独立が3名。入会1年目（5名）から10年目（1名）まで、さまざまなキャリアの会員が参加しています。

ポスター、チラシ、のぼり、横断幕、診断士娘（等身大パネル）は例年どおり。今回は、コロナ禍下での開催であり、感染防止対策を万全にすることに力を入れました。

無料経営相談については、パーティション設置や、オンライン経営相談の対応を実施。経営のワンポイントアドバイス動画の制作、配信、Facebookでのメイキング状況発信等、オンラインでのPRに力を入れたことも本年の特徴です。

参加した運営委員からは、「経営者の生の声が聞けて良かった」「動画制作や広報宣伝など初めての経験ができて良かった」「人脈が広がった」等、会員診断士にとっても経営相談利用者にとっても有益なイベントになりました。神奈川新聞の翌日朝刊にも初めて当日の様子が掲載され、中小企業診断士のプレゼンス向上にも貢献できました。



## プロコン向けのイチ押し！の活動——神奈川中小企業診断士会

### ◆プロコンへの道。かながわ士会に入りませんか？

神奈川中小企業診断士会（通称：かながわ士会）は、収益案件を積極的に受託する組織として2019年4月に発足しました。現在の会員数は180名となり、神奈川県中小企業診断協会の会員約500名のうち3割以上が参加する団体となっています。

県内の3保証協会（神奈川県信用保証協会、横浜市信用保証協会、川崎市信用保証協会）と連携して支援先企業へ専門家を派遣する事業をはじめ、行政機関、金融機関、民間企業からの多くの案件を受託し、会員メンバーで実務に従事しています。

かながわ士会のポリシーは「オープン＆フラット」です。大半の案件は公募制をとり、積極的に手を挙げるメンバーの参加を促しています。独立してプロコンになったばかりの方も、新しい仕事にチャレンジしたい方も、ご参加をお待ちしております。

# 京都府中小企業診断協会

京都協会は「変化・挑戦・貢献」し続けます！

## プロコン向けのイチ押し！の活動

### ◆第9回「京都プロコンカレッジ」開校！

当協会では、平成25年度から「京都プロコンカレッジ」を開校しています。本カレッジでは、これから独立する方や独立後間もない方を対象に、独立診断士に必要な診断・コンサルティング知識やノウハウ、営業方法等を講義と実習で学んでいただきます。

毎年6月に開校して8月まで講義を5回実施し、その後9～12月は実際に中小企業を訪問し、経営課題を解決するための診断・指導実習を行います。講師はいずれも、当協会でもコンサルティング実績のある会員が担当します。実習は時間が限られますが、受講生の方は持てる力を存分に発揮し、経営者から感謝の意をいただくことも多くあります。

なお、今年度の講義は原則オンラインで開催し、一部大きな会場でオフラインの講義も行いました。コンサルティング実務では、コロナ時代に対応するためのコンサルティングも行っています。来年度も引き続き実施しますので、プロコンを目指す方は、ぜひプロコンカレッジの門をたたいてください。



講義風景

## 企業内診断士向けのイチ押し！の活動

### ◆新入会員で作る「<sup>がくしゅうかい</sup>楽集会」

「楽集会」は、診断士登録後3年以内、または当協会入会後概ね1年以内の新入会員を対象としています。新入会員同士が相互に交流し、共に協会活動について学ぶ会を作ることで協会への参画意識を高めたという理念の下に創設され、4期目を迎えようとしています。

昨年来のコロナ禍の中にあっても、Web会議システムを使った会合や、一部制約が緩和された後でも、リアルとWebのハイブリッド会議を率先して採用し、継続的に開催することを重視してきました。これも、各メンバーが積極的に協会活動に取り組むことによって、中小企業診断士として研鑽・成長したいという意欲が強かったからこそと考えています。

研究会メンバーも今では50名に届くまでとなり、中でも企業内診断士が3分の2以上を占めています。まさに、多様な経歴を持つ中小企業診断士が集まる組織となりました。

活動の幅はさらに拡大し、2期目を迎える政策研究分科会では、補助金・助成金をはじめ、各種支援施策の研究を深めています。また、昨年度は診断スキルアップ分科会として、企業診断の不可欠要素である企業経営診断の基礎に関する研究を行っています。新米診断士は、経験の浅さから自身の診断スキルに不安を抱いていることも多いため、参加者の衆知をぶつけ合うことで悩みや疑問を早期解消し、自信につなげていってもらおう場を作っています。



ハイブリッドでの会議開催

### プロコン・企業内診断士向けのイチ押し！の活動

#### ◆国際フロンティア産業メッセでセミナーをライブ中継

当協会では広報委員会が中心となり、2015年から国際フロンティア産業メッセに出展しています。国際フロンティア産業メッセは神戸市で行われる西日本最大級の産業総合展示会で、毎年約3万人が来場します。

コロナ禍下での開催となった2020年は、出展ブースにリアルに人を集めるのではなく、情報を発信するスタジオを設け、10名の中小企業診断士による10本のオンラインセミナーをZoomにて配信しました。

スタジオには中小企業診断士バッジをモチーフとしたタペストリーを設置し、講師用のテーブルは演台ではなく小型のテーブルを用意しました。ブースは飛沫が飛ばないようにビニールシートで遮断し、来場者の方にはモニターを通してセミナーの模様を見ていただきました。

ブースへの集客は狙っていなかったものの、「何をやっているのだろう？」と足を止めて見てくださる方が例年よりも多かったことが印象的でした。

オンラインセミナーの開催概要は、チラシを作成して事前に支援機関等に告知し、オンライン上への集客を図りました。また、実施後はセミナーの動画を当協会のYouTubeチャンネルにアップし、中小企業診断士のPR素材として活用しています。

コロナ禍下での展示会出展で何ができるか。これは、中小企業に共通の課題だと思います。今だからこそできる新しい試みに中小企業診断士が挑戦することで、これからの中小企業支援につなげていきたいと考えています。



オンラインセミナーは  
こちらのQRコードから  
ご覧いただけます。

# 香川県中小企業診断士協会

知識・経験・覚悟を高め、中小企業支援者としての判断基準向上を支援

## プロコン向けのイチ押し！の活動

### ◆県協会を上手に活用しよう！

当協会では、入会3年以内の会員向けに、WEB会議ツール「Zoom」を利用してオリエンテーションを開催しました。当協会の活動内容や各種イベントを説明するだけでなく、オンラインで会員同士が交流しました。

活動の1つのセミナー事業では、手を挙げた会員のセミナー開催について、当協会が受講者募集や事務手続きをサポート。セミナー開催や講師としての経験・ノウハウを習得できるだけでなく、受注を獲得する機会にもなります。また、経営支援やセミナー講師、補助金申請支援等の受託事業もあります。

自己紹介では、参加者全員がプロフィールや近況を報告しました。近年、当協会は県外からの入会が増えており、コロナ禍で触れ合う機会がない中、貴重な交流の場になりました。当協会を良い意味で上手に活用し、自らのレベルアップにつなげていただきたいと思います。



Zoomで交流

## 企業内診断士向けのイチ押し！の活動

### ◆アニマルスピリットを持つスタートアップが香川県にもあった！

今年度の理論政策更新研修は、新型コロナウイルス感染対策を実施した上で、「コミュニティを活用した地方ならではの新規創業・内発的発展について」のテーマでパネルディスカッションを開催しました。登壇者は、動画メディア系ベンチャーの瀬戸内サニー・大崎龍史さん、MaaSサービスを展開する scheme verge・須田英太郎さん、穴吹興産社内で新規事業を担当する植本恭平さん、ベンチャーキャピタルHOXIN・福井健太郎さんで、モデレーターはco-ba takamatsu コミュニティマネージャー・荒木優衣さんです。



スタートアップの皆さん

全員が平成生まれで、「ゆとり世代」「就職氷河期世代」「デジタルネイティブ世代」と位置づけられる彼らの世代が、どのような働き方や生き方で令和時代を支え、社会を良くしていこうと考えているのか。また、高齢化や人口減少が進む香川県で起業するメリットとデメリット、面白さや困ったこと、地域活性化のヒント、さらにはスタートアップの立場として、中小企業診断士に期待していることについてもお話いただきました。

(執筆: 森 昭博会員)

# 愛媛県中小企業診断士協会

## イノベーションを起こす中小企業診断士の挑戦

### プロコン向けのイチ押し！の活動

#### ◆他業界へのチャレンジの場づくり

当協会は今年度、農業経営サポートセンターより「農業経営法人化支援総合事業」を受託し、重点支援対象の農家に対する聞き取り調査を実施することになりました。調査を行うメンバーの中には、農業分野の支援経験のない方もいるため、スキルアップ研修の名称で毎月1回、第2火曜日に中小企業診断士が講師となり、情報共有と知識習得を目的に進めています。事業に参加していない企業内診断士も研修に参加し、他業界分野の事業にも挑戦しようとする意識が芽生えています。



また、本事業に取り組むことから、当協会の山本久美会長が（一社）中小企業診断協会の令和2年度調査・研究事業に「農業経営法人化支援総合事業における支援体制の検証」のテーマで応募し、採択されました。調査・研究事業には会員企業内診断士2名（山川哲央・濱田悠介）も参加しており、当協会としては非常に頼もしく、さらなる飛躍を期待しております。

そのほか、スキルアップ研修にも、若手のみならず70歳以上の独立診断士（大西正志・長尾 要）も参加しており、長年の経験談やノウハウを共有できる環境になっています。当協会では今後も、他業界へのチャレンジがしやすい場を提供していく予定です。

### 企業内診断士向けのイチ押し！の活動

#### ◆プロボノ活動支援を通じて、企業内診断士の資質向上を図る

当協会では、働き方改革による副業時代における、新たな中小企業診断士の活躍の場も積極的に支援していきたいと考えています。その一環として、（一社）中小企業診断協会が実施する「企業内診断士におけるプロボノ活動の支援に向けた実証実験事業」に応募し、採択されました。プロボノ活動とは、企業内診断士が知識や経験を活かして、コンサルティング活動を通じた社会貢献を行うボランティア活動のことです。

今回は、愛媛県の島しょ部を所管するしまなみ商工会の会員企業に対し、経営診断を実施します。指導員のプロコンと担当する企業内診断士も決定し、令和2年11月下旬から順次、ヒアリング等を行っております。先方企業の要望を汲み取り、最終的には診断報告書にまとめ、報告会まで実施する予定です。本事業の実施は、企業内診断士のコンサルティング活動の機会拡大はもちろんのこと、公的機関との連携強化や地域企業の経営力向上にも寄与するものと考えています。

企業の発展にチャレンジが欠かせないのと同様、中小企業診断士の資質向上にもチャレンジは欠かせません。当協会はさまざまな機会をとらえて、これからも挑戦を続けていきます。

（執筆：多田 稔事業委員長）

# 福岡県中小企業診断士協会

「中小企業診断士の日」イベントとして「無料経営相談会 with コロナ対策」を開催

## プロコン・企業内診断士向けのイチ押し！の活動

当協会は、2020年11月11日（水）に「中小企業診断士の日」イベントとして、「無料経営相談会 with コロナ対策」を福岡県中小企業振興センタービルにて開催しました。

昨年までの「中小企業診断士の日」イベントは、来賓を多数お招きし、シンポジウムと懇親会の形式で開催していましたが、今年は新型コロナウイルスの影響により、イベントの内容を一から再検討することが求められました。企画運営を担当した広報委員会で協議の結果、今年は新型コロナウイルス対策を十分に講じた上で、事前予約制による参加者限定の無料相談会を開催することに決定しました。

無料相談会は、対面相談だけでなくZoomを利用したオンライン相談も併用することとし、相談時間は最大1時間と、ゆっくり相談を受けられるよう配慮しました。当協会の全会員を対象に相談員を募集したところ、平日開催にもかかわらず企業内診断士の会員にも複数ご応募をいただきました。相談にはプロコンと企業内診断士がペアで対応し、企業内診断士にとって実践的な訓練の場となりました。

イベント告知は、当協会ホームページやFacebookのほか、行政機関や支援機関を中心にポスター掲示やチラシ配布を依頼し、地下鉄博多駅構内ではポスターの集中掲示も行いました。コロナ禍が続く中、相談者が集まるかどうか心配されましたが、時間帯によっては満席となり、全体の約4割はオンライン相談となりました。

相談会当日は、手指消毒や受付での検温を徹底したほか、相談ブース内にアクリル板を設置するなどの対策を行い、会員の著書を紹介するコーナーも設置しました。相談者からは、「自分たちでは思いつかないような指摘をいただけた」など好評をいただき、「今後も同様のイベントを期待する」との意見も多数ありました。

新型コロナウイルスの感染拡大が早期に終息することを望むばかりですが、来年はさらに盛大に「中小企業診断士の日」イベントを開催できることを願ってやみません。最後に、今回のイベントにご協力いただいた皆様に、厚く御礼申し上げます。



## 研究会の学びを研究会に活かす！ 私の診断協会活用術

大阪府中小企業診断協会 五味 義也

### ◆M&Aを学んだはずが、その当事者に

私は電機メーカーの経理畑で働いています。入社時と現在で、所属する会社の社名こそ同じですが、その経緯は複雑です。入社2年目に、別の電機メーカーと部門統合した会社に転籍となったのです。しかも、持ち分比率の少ないマイノリティとして。大学時代にM&Aのゼミで学んだ自分が、まさかその真ただ中に置かれるとは思ってもみませんでした。

統合プロジェクトや海外子会社の財務システム統合プロジェクト等を通じ、貴重な経験となった一方、マイノリティ出身者の厳しさも味わいました。大学時代の自分に、「M&Aの先にあるのは、バラ色の未来だけではない」とっておきたいところです（笑）。

現在は縁あって元の会社に戻り、入社時とは異なる部署でライン部門のスタッフとして経営企画の機能を担いますが、ままたまらない思いを抱えることも少なくありません。

### ◆社外活動からつながった中小企業診断士

ままたらぬ会社員生活とは異なり、主体的に行動できるプライベートでは可能性を模索するため、さまざまな社外団体とかかわってきました。きっかけは、国内の社会人大学院（MBAコース）に通ったことです。このメンバーに偶然中小企業診断士が所属していたことが、診断士資格との出会いでした。この後、東京転勤時に参加したマーケティングの勉強会でも中小企業診断士に出会うなど、中小企業診断士とのかかわりが増えてきました。

彼らと知り合う中で、経理というスペシャリストで生きるよりも、さまざまなことに対応できる多様性が自分の武器ではないかと思ったことから、自らも中小企業診断士を目指します。そして、2回目の受験で合格し、2019年に登録することができました。

ここでも、実はもう1つの偶然がありました。MBA時代の同期と十数年ぶりに中小企業診断士の同期として再会したのです。今も同じ研究会で学ぶ彼と、改めて絆を得る機会となりました。



大阪府中小企業診断協会（以下、大阪府協会）の新歓フェスタでMBA時代の同期と再会。筆者（左）は空気を読まず、私服で参加

### ◆基礎固めは「取材の学校」と受験生支援

私の中小企業診断士1年目の基礎を固めてくれたのは、「取材の学校」と受験生支援での活動でした。「中小企業診断士がなぜ取材？」と思われる方もおられるでしょうが、アポイントやインタビューの心得、執筆のノウハウ等、取材には企業を診断する上での必須スキルがすべて詰まっています。

取材を通じて、先輩の中小企業診断士や、安倍晋三・前首相の挨拶に取り上げられた株式会社竹延の竹延幸雄社長等、思ってもいなかった方々と知り合うことができました。また、東京や名古屋等、メンバーとの地域を超えたネットワークの場となりますので、中小企業診断士になりたてでノウハウに不安を抱える方にはお勧めです。

受験生支援については、「前年度にご指導いただいた先輩たちの恩に少しでも報いたい」という思いで「タキプロ」に参加しました。その中で、受験生からの学びや、セミナーに登壇する機会をいただくとともに、素晴らしい仲間を得ることができました。

### ◆研究会から得られる相乗効果

私は現在、大阪府協会の12の研究会に所属しています。複数の研究会に所属する上での最大の悩みはもちろん、時間の制約です。数が増えるにつれ、



調整の難易度は高まりますが、コロナ禍で研究会がオンラインに移行したことにより、場所と時間の制約がなくなり、移動中や出張先でも研究会に参加できるようになりました。これによって、仕事や家庭との両立がしやすくなったことは大きな機会だと感じています。

一方で、複数の研究会に所属する最大の利点は、多様な知見と人脈により相乗効果を得られることです。取材の学校を通じて学んだ文章作成や取材のスキル等、「読む」「書く」「聞く」は私の1つの武器になりました。

そのような中、課題を感じていた「話す」スキルの学びの場となったのが「プレゼンスキルアップ研究会」です。ここで得た学びは、「観光・サービス経営研究会」を通じて実践の機会を得ました。観光白書をもとに、事業者様に向けて2020年9月に実施した無料オンラインセミナーで登壇の機会をいただいたのです。研究会のメンバー2名とともに90分枠で開催したセミナーは、企業勤めの方や事業者様、中小企業診断士等、30名以上の方に聴講いただく機会となりました。

さらに、このセミナーは2020年11月3日に開催された関西地区の「中小企業診断士の日」コンテンツに採用され、2名・40分の形式で語る機会にもつながりました。

このように、複数の研究会に所属することで得た強みにより、別の研究会に持ち込むことで学びと実践の場をいただくといった相乗効果も期待できます。

そのほか、2020年11月21日には、「ビジネスゲーム研究会」のメンバー



「中小企業診断士の日」のオンラインセミナー。勝手にパワーポイントが動き、焦りながらも乗り切った



「ビジネスゲーム研究会」のメンバーとともに開催した土曜セミナーは、トラブルもあったが参加者の評価も上々

とともに、中小企業診断士向けにオリジナルビジネスゲームを活用した土曜セミナーを主催するなど、研究会を通じた行動が次のチャンスにつながってきています。

#### ◆大阪府協会を通じた後輩診断士の支援

また、大阪府協会を通じて、後輩診断士にかかわるご縁もいただきました。2019年に、大阪府協会が実施する診断士資格取得2年以内の方に向けた教育プログラム「ゆるつなカレッジ」に2期生として参加したのです。ここで得たさまざまな学びに共感し、今年はこのプログラムに運営側として参加しています。

このプログラムは、企画・運営を行う1期生の先輩からの学びと、3期生の方との交流の双方を得る機会となっています。先輩方は慣れないオンライン環境で、さまざまなハプニングが起こる中でも素晴らしい運営を行い、3期生を指導しています。そうした先輩方の姿を見ながら、我々が企画・運営を担う来年につなげていけたらと思っています。

#### ◆学びを活かす次なる活動

私は、本業や研究会、後輩診断士の支援活動等と並行して、「タキプロ」の同期メンバーとともに「SAN」という団体を立ち上げ、世の中をパッと明るくするために少しずつ活動しています。

これまでの活動は、先輩診断士や企業へのインタビュー、補助金申請のお手伝い等に限られ、具体的な成果はまだ少ないですが、大阪府協会での活動等から得た学びを糧に、世の中を明るくするために少しずつ成果を出していきたいと考えています。

#### 五味 義也 (ごみよしや)

1979年生まれ。長野県出身。2019年中小企業診断士登録。MBA(神戸大学)。電機メーカーに勤務する企業内診断士として、経理業務を中心に従事。M&A後のPMI(システム統合)プロジェクトや海外子会社の経理システム統合プロジェクト等を歴任してきた。



はじめまして。

京都府中小企業診断協会(以下、京都府協会)所属の佐藤智美と申します。共済団体に勤務しながら、2019年に中小企業診断士に登録した企業内診断士です。勤務先から副業許可を得て、中小企業診断士としても少しずつ活動を始めています。

## 1. 受験のきっかけ～自分の武器が欲しい～

### (1)安直な受験理由

私が中小企業診断士試験を受けようと思ったきっかけは、2016年の初めに見た新聞記事です。そこには、「中小企業診断士が取得したい資格No.1にランキング」とありました。

私は新卒以来、同じ会社に勤めて20年以上になりますが、ジョブローテーションが多く専門性を持ってないことが悩みでした。営業、総務、マーケティング、経営企画等、渡り歩いた部署は幅広いものの、どれも2～3年で経験としては不十分。自分の武器といえるものが欲しかったのです。

だからといって、人気のある資格に飛びつくのはいかにも安直ですが、とにかくにも、こうして私と中小企業診断士のかかわりはスタートしました。そして、幸いにも2回目のチャレンジにして、何とか合格することができました。

### (2)資格を活かすことは合格することよりも難しい

しかし、ここではたと気づくのです。

「しまった。やっぱり専門性がない…。どうやってこの資格を活かしたら良いんだ？」

たしかに、受験勉強を通じて多少なりとも知識は身についたものの、それが武器になるかと問われると、はなはだ心許ありません。

さすがに、合格すれば専門性が身につくとは

思っていませんでしたが、どこかで「合格すれば何とかなる」と思っていたのは事実です。しかし、ただ合格するだけではどうにもならない現実を突きつけられ、途方に暮れていた時に手を差し伸べてくれたのが、「タキプロ」でした。

## 2. 企業内診断士の活動

### (1)タキプロ～人とのつながりが糧に～

タキプロは、勉強会開催やブログ運営等を中心にボランティアで活動する受験生支援団体です。私は受験予備校の合格祝賀会で知り合った方に誘われて、活動に加わりました。

タキプロでは、参加者からFacebook上で、中小企業診断士2次試験の過去問題の解答を投稿してもらってWEB勉強会を担当。投稿してもらった解答に対し、改善点等をアドバイスする中で、参加者からの「ありがとう」のメッセージに心がポツと温かくなり、専門性のない自分でも役に立てることがあると実感できました。

また、活動を通じて診断士仲間ができたことも大きな財産です。後述する「取材の学校」に参加したのもタキプロの仲間から勧められたことがきっかけでしたし、京都府協会に入会したのもタキプロの仲間が活躍していたからでした。人のつながりが重要と言われる中小企業診断士の世界ですが、私はまさしく、タキプロで人とのつながりを得ることができました。

### (2)取材の学校～駆け出しライター奮戦記～

私は続いて、「取材の学校」のプログラムにも参加しました。取材の学校では、経験の浅い中小企業診断士を対象に、取材のノウハウを教えてくれるとともに、執筆の仕事も用意してくれます。

私は、コラムやインタビュー等、約20本の記

事を執筆。インタビューでは大学の教授や企業経営者等、さまざまな方にお会いすることができました。「企業診断ニュース」2020年6月号でも、障がい者雇用率110%という驚異的な数字を達成している有限会社奥進システム（大阪市）を取材させていただき、経営者の哲学や志に触れることで深い学びになりました。

初めての取材の前日は緊張で眠れないほどでしたが、今では、いつも何かしらの学びが得られる取材の仕事が大好きになりました。診断士活動を通じて楽しい仕事に出会えたことに感謝しています。



「企業診断ニュース」2020年6月号の特集記事を執筆

### (3)京都府協会～中小企業診断士としての第一歩～

私は並行して、京都府協会にも入会しました。京都府協会は会員数約200名と比較的小規模なため、アットホームで居心地の良い点が特徴です。私は2つの研究会に参加し、研究だけでなく会員仲間でゴルフに行くなど、和気あいあいと楽しく過ごさせてもらっています。

また、京都府協会を通じて、コロナ禍で困っておられる経営者向けコールセンターの受電対応や補助金の相談窓口等を担当させていただきました。企業内診断士はなかなか中小企業支援に携わる機会を持ってませんが、京都府協会のおかげで貴重な経験を積むことができました。

## 3. 少しずつでも前へ

### (1)本業でもキャリアアップ

このように、診断士活動では取材や経営者の相談対応等、常に新しいことにチャレンジしています。経験の有無を問われると、すべてやったことはありませんでしたが、「少しでもできそうであれば、とにかくやってみる」という気概

で取り組んできました。

そうしているうちに、「診断士活動ではこんなに挑戦しているのに、本業では何かに挑戦したろうか」という思いが生まれました。そこで、全国転勤の可能性が高くなるため、今までは避けていた昇進試験にチャレンジ。結果は合格でした。

これまで、本業と診断士活動は切り離して考えていましたが、診断士活動のおかげで結果的に、本業のキャリアアップにもつながりました。

### (2)目の前の仕事に精一杯に取り組む

結局のところ、今も確たる専門性は定まっていません。それでも、チャンスをいただいた仕事に精一杯に取り組んだことで、少しずつできることが増え、前進してこれたと感じています。

本業を持ちつつ、副業として診断士活動に取り組むことは、ある意味で「良いとこ取り」かもしれません。仕事に対する責任は本業も副業も変わりませんが、報酬の多寡を気にせず副業に取り組めるのは、本業の収入があるからです。

だからといって、このままで良いのか。いずれは独立や起業を目指すのか、それとも、このまま企業内に留まり続けるのか。先の見通しはまだ立っていませんが、その時その時にできることに一生懸命に取り組むことで、道は拓けると信じています。

### 佐藤 智美(さとうともみ)

神戸大学卒業後、共済団体で経営理念の策定や新店舗立ち上げ、広告宣伝、営業等に従事。社会保険労務士、FP。



## 影響の輪を広げつなげる パラレルキャリアを目指して

東京都中小企業診断士協会城南支部 地引 智美

### ◆お客様の経営課題解決を支援できるようになりたい

私は、現在システム会社に勤める企業内診断士です。中小企業診断士の資格取得を志した当時は、入社以来法人営業に携わっており、システム開発経験のない自身が営業としてお客様にプラスアルファの付加価値をどのように提供できるかで悩んでいました。

そのような時に、お客様先に常駐してお客様と一緒にビジネスを考え、経営層に提案する機会をいただきました。経営をよく知らない自身の無力さを嫌というほど痛感しながらも、周囲にアドバイスをもらいながらやり切ったことで、一歩踏み込んでビジネスの悩みを紐解いていく活動が本当にお客様に喜ばれるのだと実感しました。

目の前のシステム提案だけではなく、お客様の経営課題解決に踏み込んで一緒にビジネスを創れるようになりたい——私はこの思いから中小企業診断士の資格取得に挑戦し、何とか一発合格。2019年に中小企業診断士登録をすることができました。

### ◆資格取得後に広がった世界

資格取得後は、何よりも社外の人脈が急激に広がったことに驚きました。特に最初は、中小企業診断士1年目ならではの活動として受験生支援団体「タキプロ」に所属したことと、中小企業政策研究会に所属し運営サポーターとなったことで、同期や先輩とのつながりが一気に広がりました。

タキプロでは、受験生向けセミナーの企画運営やブログの執筆を行いました。特にセミナー運営では、社外での集客、受験生が聞きたいと思うコンテンツの企画制作等、これまでにない経験ができ、学びになるとともに、一緒に企画運営を行った同期との絆も深まりました。



タキプロのセミナーで自身の  
中小企業診断士としての活動を紹介

中小企業政策研究会は中小企業診断士の有志団体で、恩師の先生の勧めもあり所属しましたが、財務、IT、ビジネス創発、事業承継等、さまざまな領域で活躍する先輩方と知り合う機会となりました。詳細は後述しますが、この中でビジネス創発の研究会に所属し、同分野に関心を持つ診断士仲間ができたことも貴重な経験でした。

上記の2つの団体にスプリングフォーラムが始まる前から所属し、同期や先輩方からいろいろと話を聞けたことで、最初の1年をどう過ごすかをイメージしながら、中小企業診断士としてのスタートを切ることができました。

### ◆本業にも診断士活動にも生きる豊富なインプット機会

中小企業診断士は、研究会やマスターコース等、豊富なインプット機会があるため、どこに所属するか迷いますよね。私も非常に目移りしながら、「本業に活かす」「個人での仕事(副業)に活かす」の二軸で選びました。

「本業で活かす」目線で選んだのは、東京都中小企業診断士協会中央支部の「経営革新のコンサルティング・アプローチ」というマスターコースです。歯ごたえ抜群の演習にくじけそうになりながらも、資格勉強で学んだことをさらに深める良い機会となりました。もう1つ、前述したビジネス創発の研究会「ビジネスモデルカフェ」では、



ビジネスモデルカフェのメンバーと  
ビジネスコンテストに出場

デザイン思考等のビジネス創発手法を座学で学ぶだけでなく、ビジネスコンテストへの挑戦等を通して研究会メンバーとともに学びの実践もできました。

「個人での仕事（副業）に活かす」目線で所属したのは、「取材の学校」と、実践重視の東京都中小企業診断士協会城西支部の「コンサルティング・ビジネス研究会」でした。特に取材の学校では、「聞く」「話す」「書く」といった経営支援でも必要な基本スキルを向上できただけでなく、実務の場が用意されているため、本当の意味で学びが身につきました。

#### ◆個人で仕事をする事へのチャレンジ

資格取得前は、中小企業診断士としての仕事の間があることすらよく知らなかったのですが、取得後は自社が副業OKということもあり、長い目でライフプランを考えた時に「個人でも仕事をしたい」という想いが湧きました。第一歩の機会をいただいたのは、前述の取材の学校です。雑誌記事やWeb記事等、10本以上を執筆させていただき、経営者やその道のプロの方の話を聞けることが、何よりも興味深く面白かったです。

また、テーマを企画提案する機会もあったため、自身が興味のあるSDGsをテーマにした記事を執筆できたことも良い経験になりました。執筆だけでなく、ご紹介により講師登壇といった経験を積むこともでき、実績の幅が広がりました。

中小企業診断士2年目となる今年は、知り合った中小企業診断士の方々からのご紹介で、コロナ禍における補助金や認定制度等の申請書作成支援に携わる機会が増えました。コロナ禍を乗り切るために新しい事業を始めたくても、事業計画をどのように立てれば良いかわからない。そのような不安を持ったお客様から課題や想いを引き出し、計画書として形にすることでお客様がホッと安心して喜ばれた顔を見ると、やりがいを感じました。

#### ◆本業と診断士活動の相乗効果を目指して

資格取得を機に、本業でも大きな転機がありました。勉強したことを活かし、もっと直接的に経営課題解決に携わることができる業務に就きたいと希望を伝えた結果、自社の主要部門の事業戦略策定や施策実行を担う部署へ異動となりました。経営層と近くなったことで、診断士2次試験の実践版のような課題に日々取り組んでいます。自身の知識と経験の浅さを感じながらも、チャレンジングな環境で仕事をできることにやりがいを感じています。

今後も、本業と診断士活動で相乗効果が生まれるようなパラレルキャリアを築いていきたいと考えています。自身のスキルアップはもちろん、少しずつではありますが、社外で築いた人脈を自社でのビジネス創発に向けて還元することも始めています。影響の輪を広げつなげることで、世の中が良くなる面白い仕事を生むことができたらと思います。

#### 地引 智美（じびきともみ）

1985年生まれ。神奈川県出身。2019年中小企業診断士登録。一橋大学卒業後、システム会社に入社。入社以来、大手企業様向け法人営業に従事し、現在は自社の主要部門の1つの経営スタッフとして事業戦略策定や施策実行に携わる。社外では、中小企業診断士としての研究会活動、取材・執筆及び中小企業の事業計画書作成支援や、幸せ視点の事業・組織づくりを志す「hintゼミ」の運営サポーターに携わる。



## ◆全体最適を実現するために

私は中小食品メーカーに新卒で入社し、今年で7年目になります。診断士資格の取得を決意した当時から、食品成分に関する基礎研究に携わっています。

「経営診断」「企業支援」といった言葉とは無縁だった私が中小企業診断士の勉強を始めたのは、研究テーマの方向性に悩んでいたことがきっかけです。当時、新たな研究テーマを提案するにあたり、会社の長期の発展に結びつくようなテーマを望んでいました。そのためには、自社のポジショニングや使える経営資源等を踏まえ、全体最適を実現できる提案が理想的です。

ただ、これらは今だからこそ使える言葉です。理系の純粋培養だった当時の私には、何をどう考えたら良いか見当もつきませんでした。しかし、仕事の成否は担当者の熱意で決まると感じていた私は、「当事者である自分が納得できるものでないと、推進力は生まれません」と考えたのです。そこで、経営の全体像がわかりそうな資格として中小企業診断士の勉強を始め、2019年に登録を果たしました。

## ◆知的財産とのかかわり

私は研究の傍ら、特許の調査・権利化業務も兼任していました。結果として、この知財業務を通して学びの成果が活かされることとなります。

ここ数年、知財の分野では「IPランドスケープ」という言葉がよく取り上げられるようになりました。IPランドスケープとは、知財情報を経営戦略の策定に生かすこと、または知財を経営における重要な情報と位置づけることを指します。知財の専門家といえば弁理士ですが、従来は出願や管理といった知財業務の一部をア

ウトソースされるにとどまることが多かったようです。その後、IPランドスケープという概念の登場によって、より上流の経営戦略策定に関与する弁理士も増えてきました。

しかし、経営情報が持つ重要性和秘匿性は依然として変わりません。したがって、企業のアウトソーシング先としての弁理士がかかわりやすいのは、他社情報の分析結果を提示するところまでで、クライアント企業の経営戦略策定にまで深くコミットできる環境にいる方は多くないと思われます。では、企業内の知財担当者はどうかという、多くは技術畑出身で、経営には必ずしも明るくありません。

ここに、企業内診断士の活躍する余地があります。私もコテコテの技術畑出身ですが、診断士試験で経営について学んだことと知財の知識を組み合わせ、会社に有用な情報を提供することができるのではないかと考えました。

## ◆学びが生かされた実感

ちょうど資格取得前後のタイミングで、社内に知財業務を強化しようという流れが起こったため、これを後押しに新システムの導入を行いました。公開されている特許文献からさまざまな情報を抽出し可視化するもので、このシステムを使って競合他社の技術開発動向を分析できるようになりました。

同時に、特許以外の情報源から事業戦略分析や財務分析を行い、多面的な情報を統合して開発陣や経営層にプレゼンテーションを行う業務を立ち上げました。これによって今は、基礎研究だけでなく開発全体のテーマ設定にかかわることができています。この仕事は、資格を取っていなければ決して生み出すことができなかったでしょう。



社内プレゼンテーションの様子

また、知財以外にも、共同研究契約書の確認や補助金の申請、会社の顧問弁護士とのやり取りなど、さまざまな仕事で中小企業診断士の知識が役に立っており、本当に学んで良かったと思っています。

#### ◆現場で求められる臨機応変な対応

社外ではこれまで、経営関連の取材執筆活動を中心に、経営発達支援計画の策定支援、経営者団体の月間通信への記事提供、マネジメント研修の補助業務等に携わりました。初めて経営者の方にアポイントを取った時は、自分に良い仕事ができるだろうかと不安だったことを覚えています。その時は、以前読んだ本の「1時間のプレゼンで披露する情報の裏に、その30倍の情報が準備されている」という一節を思い出し、アウトプットする内容の30倍量の準備を目指すことで不安をかき消しました。

その後、経営者の方と直接お会いした日は、訪問先の会社の朝礼で突然、一言スピーチをさせていただくというサプライズが発生。準備段階では想定していなかった事態に直面し、現場では何が起るかわからない、と身の引き締まる思いでした。しかし、社内の業務では決してめぐり会えないような立場や分野の方々とやり取りをすることで教えていただくことは非常に多く、大きな刺激になっています。



記事を掲載いただいた雑誌の例

#### ◆まずは足元から貢献

私のような研究開発職の人間は中小企業診断士には多くないようで、知り合った方々からは「どうして中小企業診断士に？」と聞かれることが何度もありました。しかし、だからこそ技術屋と他部署をつなぐハブ人材としての役割は大きいと思います。もちろん、企業内だけでなく、オープン・イノベーションが叫ばれる昨今、外部専門家との連携においても主導的な役割を担えるでしょう。

現在は社内の活動が中心ですが、まずは焦らずに自社に貢献しながら、社外で価値を提供する機会を見つけ、その経験を再び社内に還元するといった正のループを目指しています。

#### 白井 郁也 (しらい いくや)

埼玉県出身。東京大学大学院農学生命科学研究科修了後、長野県の食品メーカーに勤務。機能性食品の研究や商品開発、知財業務等を担当。2019年中小企業診断士登録。



# 地域別にみる 中小企業診断士アンケートデータ

～独立・副業、コンサルティング活動日数、コンサルティング報酬、年間売上～

東京都中小企業診断士協会城北支部 福島 正人

東京都中小企業診断士協会中央支部／埼玉県中小企業診断協会 末廣 秀樹

一般社団法人中小企業診断協会(以下、協会)では5年に一度、会員診断士を対象にしたアンケート調査を行っている。

本稿は、2016年版のアンケート調査を、「地域別」の切り口を交えて分析したものである。独立・副業、活動分野(公的業務・民間業務)に関するデータだけでなく、これまで公開されていなかったコンサルティング報酬や年間売上に関するデータも盛り込んでいる。中小企業診断士として活動する上で、ぜひ参考にしていただきたい。

なお、現在は、最新のアンケート調査(2021年版)の集計・分析作業が進められているところである。作業が完了しだい、集計・分析結果及び考察等は、会員診断士向けの会報誌「企業診断ニュース」等で公開予定である。こちらも、皆様の参考になれば幸いである。

## はじめに

あなたは、中小企業診断士のことをどのくらい知っているだろうか? 「どのような活動をしているの?」「どのくらい働いているの?」「報酬や年収はどのくらいなの?」「独立や副業の割合は?」——さまざまな疑問が浮かんでくる人も多いだろう。

そうした疑問に答えてくれる貴重なアンケートデータがある。協会が5年に一度、会員診断士を対象に行っているアンケート調査である。中小企業診断士を対象とした大規模なアンケートは少なく、その実態を把握できる貴重な情報である。

これまで、協会が行っているアンケート調査の結果は、会報誌「企業診断ニュース(毎月発行される協会の会報誌)」で報告されてきた。また、

協会Webサイトでも、アンケート結果が公開されている。

## 〈データでみる中小企業診断士 2016年版〉

The screenshot shows the SMECA website interface. At the top, there are navigation links for 'English', 'Site Map', and 'My Page'. The main heading is 'データでみる中小企業診断士 2016年版 ~中小企業診断士アンケート結果から~'. Below this, there is a section titled '【調査方法】' (Survey Method) with three points: 1. Survey对象: 正会員 (9,457名) に対する郵送法; 2. 調査時点: 平成27年11月; 3. 回答数: 1,992名 (回答率21.1%). Below that is an 'INDEX (調査項目)' table.

項目	内容
1. 基本属性	生誕地、性別、中小企業診断士以外の所属、勤務先、専業主婦の有無、専業主婦に対する評価
2. 活動状況	経営コンサルティング(副業含む)の活動状況、活動経過年数、経営コンサルティング業務を行っている場合、企業診断

協会Webサイト(<https://www.j-smeca.jp/contents/data2016>)より

本稿は、当該アンケートを「地域別」の切り口を加えて分析したものである。第1章では「独立と副業」、第2章では「コンサルティング活動」、第3章では「報酬と年間売上」をテーマにしている。これまでに公開してきた分析データだけでなく、本稿のために新たに分析した内容も含まれる。

本稿で紹介する分析データの元になっているのは、下記のアンケート調査である。

## 〈2016年版 アンケート調査〉

調査対象方法	協会正会員(9,457名)に対する郵送法
調査時点	2015(平成27)年11月
回答数	1,992名(回答率21.1%)



## 〈協会のブロック分け〉

ブロック	都道府県	アンケート 回答数
北海道 東北	北海道, 青森, 岩手, 宮城, 秋田, 山形, 福島	120名
北関東 信越	茨城, 栃木, 群馬, 新潟, 長野	96名
南関東	埼玉, 千葉, 東京, 神奈川, 山梨, 静岡	1,013名
中部	愛知, 岐阜, 三重, 富山, 石川	173名
近畿	福井, 滋賀, 京都, 奈良, 大阪, 兵庫, 和歌山	386名
中国	鳥取, 島根, 岡山, 広島, 山口	85名
四国	徳島, 香川, 愛媛, 高知	21名
九州 沖縄	福岡, 佐賀, 長崎, 熊本, 大分, 宮崎, 鹿児島, 沖縄	134名

なお、本稿で使用する「地域別」の集計は、原則として協会の上記ブロック分けに基づく。ただし、中国ブロックと四国ブロックは回答者数(サンプル数)が少ないため、中国・四国ブロックとして合算して分析したデータも一部含まれている。

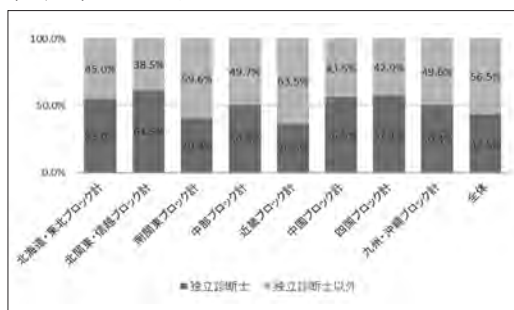
各都道府県協会の会員は、必ずしもその地域だけで活動しているわけではない。自分の居住地と異なる都道府県協会に加入している人、複数の都道府県協会に加入している人もいる。

そのため、地域別の分析結果が、中小企業診断士の居住地や活動地域と必ずしも一致するわけではないが、地域ごとの大まかな傾向はみてとれるであろう。

## 1章 独立と副業

中小企業診断士には、プロコンサルタントとして独立している人もいれば、企業等に勤めながら副業でコンサルティング活動を行っている人もいる。1章では、独立と副業というテーマで、分析結果を紹介する。

## 〈図表1〉独立診断士の割合



〈アンケートの質問〉

あなたの職業は？

※「プロコン経営(他資格兼業なし)」[「プロコン経営(他資格兼業あり)」→独立診断士, 上記以外(民間企業・コンサルティング会社等勤務・公務員等)→独立診断士以外に分類して集計]

### 1. 独立診断士の割合

まずは図表1で、独立診断士の割合をみてみる。ここでいう独立診断士は、アンケートで「プロコン経営(他資格兼業なし)」または「プロコン経営(他資格兼業あり)」と回答した人の割合である。回答者全体では、独立診断士が43.5%、独立診断士以外が56.5%で、独立診断士の割合がやや多い。

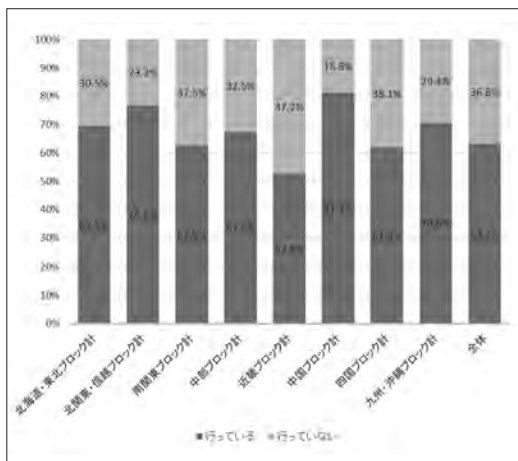
しかし、地域別でみると、全国8ブロック中6ブロックで、独立診断士の割合が5割を超えていることがわかる。北関東・信越ブロックでは6割を超え(61.5%)、四国ブロック(57.1%)、中国ブロック(56.5%)、北海道・東北ブロック(55.0%)でも、独立診断士の多さが目立つ。

一方、近畿ブロック(36.5%)と南関東ブロック(40.4%)は、独立診断士の割合が少ない。大阪や東京等の大都市を抱えている地域では、民間企業等に勤務している中小企業診断士が多いと推定される。

### 2. 副業でのコンサルティング

独立をしていなくても、副業等でコンサルティング業務を行っている中小企業診断士は多い。図表2は、コンサルティング業務(副業などを含む)を行っている人の割合である。回答者全体では、63.2%が「コンサルティング業務を行っている」と回答している。

〈図表2〉コンサルティング業務(副業などを含む)を行っている人の割合



〈アンケートの質問〉

現在、あなたはコンサルティング業務(副業などを含む)を行っていますか？

地域別でみると、コンサルティング業務を行っている割合が、全国平均よりも多い地域がある。特に目立つのは、中国ブロック(81.3%)、北関東・信越ブロック(76.8%)、九州・沖縄ブロック(70.6%)である。

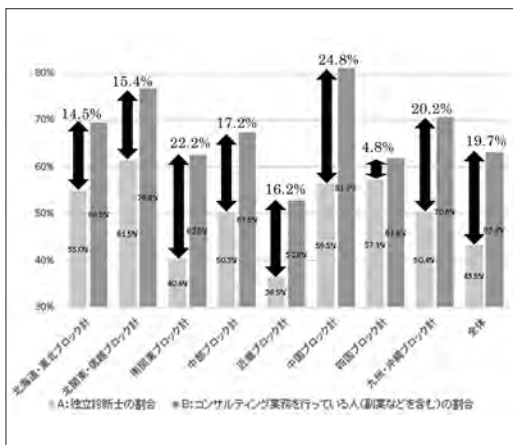
ここで、コンサルティング業務を行っている割合が最も多い中国ブロック(81.3%)について、もう少し考察してみる。中国ブロックの独立診断士の割合は56.5%であり(図表1)、その差の24.8%は独立診断士以外がコンサルティング業務を行っていることになる。

もちろん、この中にはコンサルティング会社勤務の中小企業診断士(独立はしていないが、本業でコンサルティング業務を行っている)等も一部含まれる。しかし、その差の多くは、副業でコンサルティング業務を行っている中小企業診断士と推定される。

ここで、少し複雑になるが、図表1と図表2を比較してみる。

図表3は、図表1と図表2を組み合わせたグラフである。差が大きい地域は、中国ブロック(24.8%)、南関東ブロック(22.2%)、九州・沖縄ブロック(20.2%)である。一方、差が小さい地域は、四国ブロック(4.8%)、北海道・東北ブロック

〈図表3〉独立診断士/コンサルティング業務を行っている人の割合(図表1・2を統合)



※差は、小数点第2位以下の数値を使って算出

※差がわかりやすいよう、縦軸目盛を30~80%の範囲に設定

(14.5%)、北関東・信越ブロック(15.4%)である。

差が小さい地域は独立診断士がコンサルティング業務の多くを担い、差が大きい地域は副業等の中小企業診断士が活躍していると推定される。

## 2章 中小企業診断士のコンサルティング活動

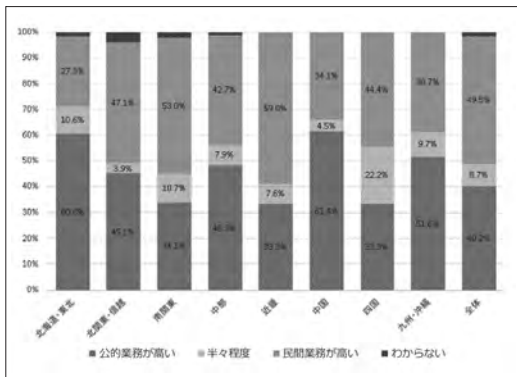
2章では、中小企業診断士のコンサルティング活動について分析する。ここでいうコンサルティング活動とは、診断業務、経営指導業務、調査研究業務、講演・教育訓練業務、原稿執筆業務等が含まれる。

中小企業診断士の活動は多岐にわたり、全体像を捉えるのは困難である。そこで本章では、「公的業務と民間業務」「コンサルティング業務の活動日数」という2つの切り口で、中小企業診断士のコンサルティング活動を整理していく。

### 1. 公的業務と民間業務

まずは、公的業務と民間業務について整理してみる。図表4は、公的業務と民間業務の割合を分析したものである。「活動時間の割合」ではなく、「売上に占める割合」である点に注意を要す

〈図表4〉公的業務・民間業務の割合



〈アンケートの質問〉

あなたの仕事を大きく分けて公的業務(国・都道府県・市町村、商工会議所などの中小企業関係機関)、民間業務とするなら、売上に占める割合はどちらがどの程度高いですか(○印は一つだけ)。

※「公的業務がかなり高い」「公的業務がやや高い」→公的業務が高い

「民間業務がやや高い」「民間業務がかなり高い」→民間業務が高い に分類して地域別で集計

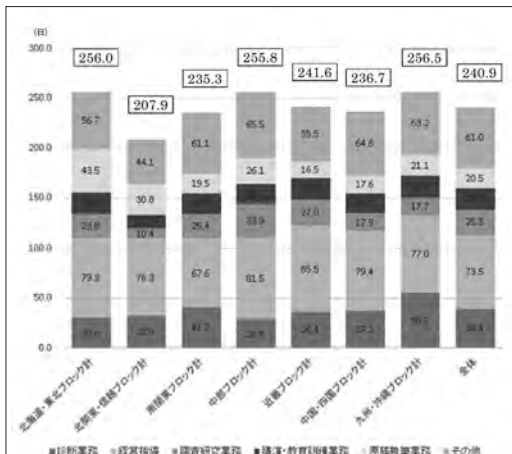
る。なお、ここでいう公的業務は、「国・都道府県・市町村、商工会議所などの中小企業関係機関での業務」を指している。たとえば、市町村の中小企業支援窓口での経営相談業務、商工会議所の専門家派遣業務等が該当する。

図表4の一番右が、回答者全体(全国)の分析数値である。「公的業務が多い(40.2%)」よりも、「民間業務が多い(49.5%)」の方がやや上回っている。しかし、地域別でみると、傾向が分かってくる。

「公的業務が多い」が5割を超えているのが、中国ブロック(61.4%)、北海道・東北ブロック(60.6%)、九州・沖縄ブロック(51.6%)である。行政や商工会等との連携が強く、公的な枠組みを利用して地域企業を支援している様子が見える。

一方、「民間業務が多い」が5割を超えているのが、近畿ブロック(59.0%)、南関東ブロック(53.0%)である。大阪や東京等の大都市が含まれる地域で独立診断士の数も多く、公的な枠組みを超えて(大企業や中堅企業への支援を含めて)活動している様子が見える。

〈図表5〉コンサルティング業務の日数



〈アンケートの質問〉

あなたは、昨年1年間で、次のコンサルティング業務を何日行いましたか。およその日数をご記入ください。また、そのうち中小・小規模企業を対象とする業務は何日ですか。

※質問対象は「コンサルティング業務(副業を含む)を行っている」人のみ

## 2. 年間業務日数

次に、中小企業診断士の年間業務日数をみてみる。図表5は、「コンサルティング業務の日数」を地域別で分析したグラフである。ただし、中国・四国ブロックは回答数が少なかったため、合算して集計している。

全体(全国平均)で見ると、コンサルティング業務の年間日数は240.9日である。1年の約3分の2は、コンサルティング業務に取り組んでいることがわかる。データには、副業でのコンサルティング(企業勤務の中小企業診断士が休日に副業を行うなど)も含まれている。独立診断士のみで平均値を出せば、さらに業務日数は増えると想定される。

地域別でもみてみよう。年間250日を超える地域は、九州・沖縄ブロック(256.5日)、北海道・東北ブロック(256.0日)、中部ブロック(255.8日)である。一方、日数が少ない地域は、北関東・信越ブロック(207.9日)、南関東ブロック(235.3日)、中国・四国ブロック(236.7日)である。

## 3. 業務別の活動日数

業務別の活動日数も整理しよう。図表5の全

体(全国平均)部分をみると、診断業務が39.4日、経営指導業務が73.5日、調査研究業務が25.5日、講演・教育訓練業務が21.0日、原稿執筆業務が20.5日、その他業務が61.0日である。

ここでいう診断業務は、「ヒアリングを行い、現状を把握し、問題点の指摘や経営改善のアドバイス(必要に応じ、報告書の作成)を行う業務」を指している。経営指導業務は「経営に関するアドバイス全般」を指している。中小企業診断士が、経営指導業務や診断業務に多くの日数を使っていることがわかる。

その他業務も61.0日と多い。ここには、公的機関での業務(コーディネータ・インキュベーションマネージャー)、補助金関連業務(申請支援・審査員)等が含まれている。

図表5を、業務別×地域別の切り口でも整理してみよう。診断業務が最も多いのは九州・沖縄ブロック(55.7日)で、南関東ブロック(41.2日)、中国・四国ブロック(37.2日)が続いている。

経営指導業務が最も多いのは近畿ブロック(85.5日)で、中部ブロック(81.5日)、中国・四国ブロック(79.4日)が続く。

調査研究業務が最も多いのは中部ブロック(33.9日)で、近畿ブロック(27.0日)、南関東ブロック(25.4日)が続いている。

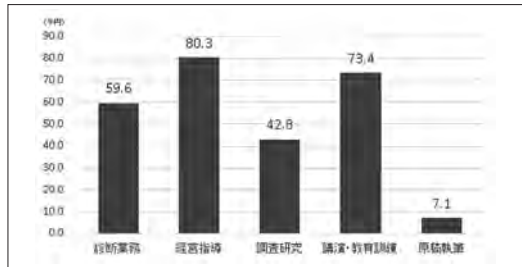
講演・教育訓練業務が最も多いのは北海道・東北ブロック(22.0日)で、九州・沖縄ブロック(21.9日)、近畿ブロック(20.8日)が続く。

原稿執筆業務が最も多いのは北海道・東北ブロック(43.5日)で、北関東・信越ブロック(30.8日)、中部ブロック(26.1日)が続いている。これは、地域ごとにどのようなコンサルティング業務が多いかを知る上で、参考になるデータであろう。

### 3章 報酬と年間売上

3章では、コンサルティング業務の平均報酬や年間売上(年収)を整理してみる。コンサルティング業務は形のないものが多く、商品販売等と異なり、成果が見えづらい。どのような業務で、どのくらいの報酬を得ているか。また、業務によ

〈図表6〉コンサルティング業務の平均報酬



〈アンケートの質問〉

あなたの現在のコンサルティング報酬はいくらですか。平均額と最高額を千円単位でそれぞれご記入ください(0の場合は0とご記入ください)。

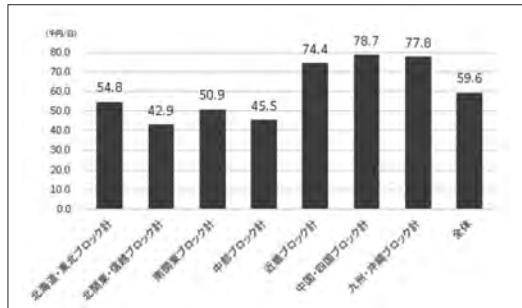
※質問対象は「コンサルティング業務(副業を含む)を行っている」人のみ

※平均額をグラフ化

※診断業務、経営指導業務、調査研究業務、講演・教育訓練業務は1日あたりの平均報酬

※原稿執筆は、1枚(400字)あたりの平均報酬

〈図表7〉診断業務の平均報酬



て報酬の差・地域差はあるのか。

まずは、業務別のコンサルティング報酬をみてみよう。

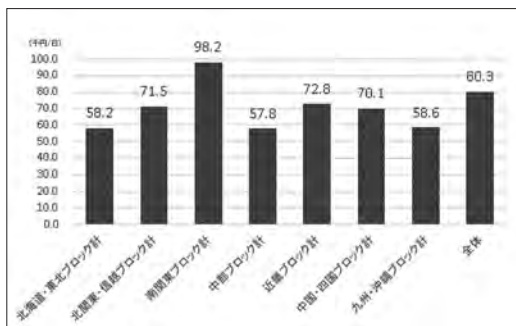
#### 1. コンサルティング業務別の平均報酬

図表6は、コンサルティング業務別の平均報酬(全国平均)である。診断業務、経営指導業務、調査研究業務、講演・教育訓練業務は1日あたりの平均報酬、原稿執筆は1枚(400字)あたりの平均報酬である。

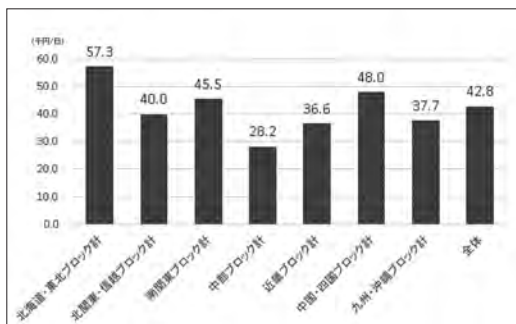
それぞれの業務は、事前準備の時間・アフターフォローにかかる時間が異なり、単純比較はできない。ただ、中小企業診断士が報酬設定を行う上で、目安になる数値といえるだろう。

次に、業務別×地域別で細分化したデータをみていこう。

〈図表8〉経営指導業務の平均報酬



〈図表9〉調査研究業務の平均報酬



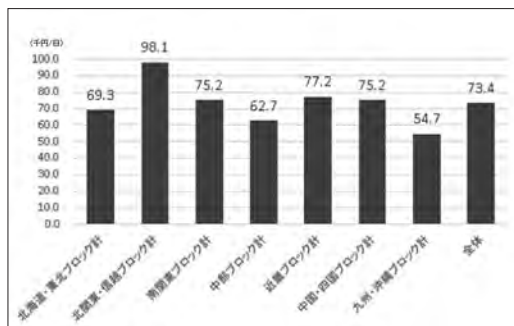
## 2. 診断業務の報酬 (地域別)

図表7は、診断業務の平均報酬のグラフである。全体(全国平均)では59.6千円/日であるが、地域によってのバラツキが大きい。最も高いのが、中国・四国ブロック(78.7千円/日)で、九州・沖縄ブロック(77.8千円/日)、近畿ブロック(74.4千円/日)が続いている。診断業務の報酬は、西日本の方が高い傾向がある。

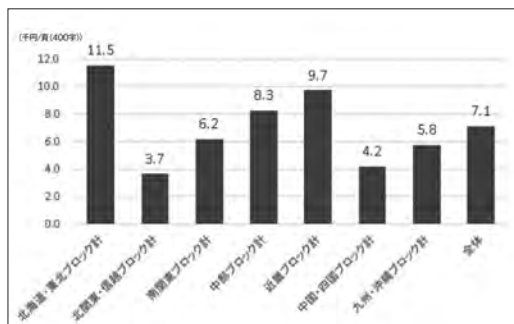
## 3. 経営指導業務の報酬 (地域別)

図表8は、経営指導業務の平均報酬のグラフである。全体(全国平均)では80.3千円/日であるが、地域によってのバラツキが大きい。最も高いのが南関東ブロック(98.2千円/日)で、近畿ブロック(72.8千円/日)、北関東・信越ブロック(71.5千円/日)が続く。南関東ブロック、近畿ブロック、北関東・信越ブロックは、公的業務よりも民間業務の割合が多い地域でもある(図表4)。民間業務は公的業務よりも単価が高い傾向にあり、結果として経営指導業務の平均報酬が高い数値になっていると推定される。

〈図表10〉講演・教育訓練業務の平均報酬



〈図表11〉原稿執筆業務の平均報酬



近畿ブロックは経営指導業務の日数も多い地域である(図表5)。報酬面でも業務日数面でも、経営指導業務の比率が高い地域といえる。

## 4. 調査研究業務の報酬 (地域別)

図表9は、調査研究業務の平均報酬のグラフである。全体(全国平均)では42.8千円/日であるが、最も高いのは北海道・東北ブロック(57.3千円/日)で、中国・四国ブロック(48.0千円/日)、南関東ブロック(45.5千円/日)が続く。

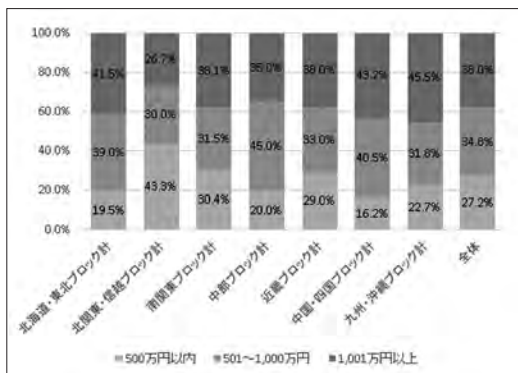
## 5. 講演・教育訓練業務の報酬 (地域別)

図表10は、講演・教育訓練業務の平均報酬のグラフである。全体(全国平均)では73.4千円/日であり、最も高いのが北関東・信越ブロック(98.1千円/日)で、近畿ブロック(77.2千円/日)、南関東ブロック(75.2千円/日)、中国・四国ブロック(75.2千円/日)が続く。

## 6. 原稿執筆業務の報酬 (地域別)

図表11は、原稿執筆報酬の平均報酬である。

〔図表12〕コンサルティング業務の年間売上



〈アンケートの質問〉

あなたのコンサルティング業務の年間売上(又は年収)はいくらですか。

※コンサルティング業務日数が100日以上の方のみ回答  
 ※年間売上を、「500万円以内」「501~1,000万円」「1,001万円以上」の3区分で再集計

全体(全国平均)では7.1千円/ページ(400字)であるが、地域によってのバラツキが大きい。最も高いのが北海道・東北ブロック(11.5千円/ページ)で、近畿ブロック(9.7千円/ページ)、中部ブロック(8.3千円/ページ)が続く。

## 7. コンサルティング業務の年間売上

最後に、コンサルティング業務の年間売上(年収)のデータをみてみる。これまで地域別のデータは公表されておらず、貴重なデータである。

図表12は、コンサルティング業務の年間売上(年収)である。あくまでもコンサルティング業務の年間売上(年収)を回答するものであり、他の収入(不動産収入等)は含まれない。比較しやすいように、500万円ごと(500万円以内、501~1,000万円、1,001万円以上)に再集計し、グラフ化している。

全体(全国平均)では、1,001万円以上と回答した人の割合は38.0%である。地域別で見ると、1,001万円以上の割合が最も多いのは九州・沖縄ブロック(45.5%)で、中国・四国ブロック(43.2%)、北海道・東北ブロック(41.5%)が続いている。九州・沖縄ブロック、北海道・東北ブロックは、年間活動日数が多い地域でもあり(図表5)、地域に根差して活発に活動している中小企業診

断士が、高い年間売上を確保していると推定される。

## おわりに

ここまで、地域別に分析した中小企業診断士アンケートデータを紹介してきた。日本各地で中小企業診断士がコンサルティング活動を行っており、活動内容・活動日数・報酬など地域ごとに特徴がみられることがわかった。

最後になったが、このような分析ができたのは、アンケート調査にご協力いただいた会員診断士の皆様のおかげである。ご協力いただいた皆様、そして本稿をご覧いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。どうもありがとうございました。

### 福島 正人 (ふくしま まさと)

合同会社夢をカナエル代表社員。1969年生まれ。都市銀行勤務を経て、2004年に診断士資格を取得し独立。2013年度中小企業経営診断シンポジウムで中小企業診断協会会長賞を受賞。『図解でわかるビジネスフレームワーク いちばん最初に読む本(アニム出版)』ほか、書籍・雑誌の執筆多数。



### 末廣 秀樹 (すえひろ ひでき)

有限会社東京コンサルアイ代表。産業カウンセラー、健康管理士一般指導員、2014年中小企業診断士登録。経営相談・経営支援、コミュニケーション支援、新事業開発支援、ISO9001/ISO14001導入支援を行っている。



## 47都道府県協会連絡先一覧

ブロック	県協会名	住 所	電 話
北海道・東北	一般社団法人中小企業診断協会北海道	〒060-0004 札幌市中央区北4条西6丁目1番地 毎日札幌会館4F	011-231-1377
	一般社団法人青森県中小企業診断士協会	〒030-0801 青森市新町2-4-1 青森県共同ビル7F (公財)21あおもり産業総合支援センター内	017-722-4053
	一般社団法人岩手県中小企業診断士協会	〒020-0878 盛岡市肴町4-5 カガヤ肴町ビル2F 岩手県中小企業団体中央会内	019-624-1363
	一般社団法人宮城県中小企業診断協会	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-11-12-303	022-262-8587
	一般社団法人秋田県中小企業診断協会	〒010-0013 秋田市南通築地1-1 2-C号	018-834-3037
	一般社団法人山形県中小企業診断協会	〒990-2451 山形市吉原2-8-6 ヤマラク会館2F	050-3681-2427
	一般社団法人福島県中小企業診断協会	〒960-8053 福島市三河南町1-20 コラッセふくしま7F	024-573-6370
北関東・信越	一般社団法人茨城県中小企業診断士協会	〒315-0014 石岡市国府1-2-5	0299-56-4301
	一般社団法人栃木県中小企業診断士協会	〒321-0152 宇都宮市西川田7-1-2	028-612-8880
	一般社団法人群馬県中小企業診断士協会	〒371-0854 前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5F	027-288-0257
	一般社団法人新潟県中小企業診断士協会	〒950-1101 新潟市西区山田3081-6 ビュアハートビル1F	025-378-4021
南関東	一般社団法人長野県中小企業診断協会	〒390-0875 松本市城西2-5-12 城西ビジネスビル2F	0263-34-5430
	一般社団法人埼玉県中小企業診断協会	〒330-0063 さいたま市浦和区高砂4-3-21 三協ビル5F	048-762-3350
	一般社団法人千葉県中小企業診断士協会	〒260-0013 千葉市中央区中央3-10-6 北野京葉ビル3F	043-301-3860
	一般社団法人東京都中小企業診断士協会	〒104-0061 中央区銀座2-10-18 東京都中小企業会館7F	03-5550-0033
	一般社団法人神奈川県中小企業診断協会	〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80 神奈川中小企業センタービル3階 307号室	045-228-7870
	一般社団法人山梨県中小企業診断士協会	〒400-0858 甲府市相生1-7-3	055-220-1351
中部	一般社団法人静岡県中小企業診断士協会	〒420-0857 静岡市葵区御幸町3-21 ベガサート3F	054-255-1255
	公益社団法人愛知県中小企業診断士協会	〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-22-8 大東海ビル8階 809A	052-581-0924
	一般社団法人岐阜県中小企業診断士協会	〒500-8833 岐阜市神田町1-8-5 協和興業ビル5階 高橋和宏税理士事務所内	058-263-1500
	一般社団法人三重県中小企業診断協会	〒514-0004 津市栄町1-891 三重県合同ビル5F	059-246-5911
	一般社団法人富山県中小企業診断協会	〒930-0866 富山市高田527 情報ビル2F	076-433-1371
	一般社団法人石川県中小企業診断士協会	〒920-8203 金沢市鞍月2-20 石川県地場産業振興センター新館3F	076-267-6030
近畿	一般社団法人福井県中小企業診断士協会	〒910-0296 坂井市丸岡町熊堂3-7-1-16 福井県産業情報センタービル内	0776-67-7447
	一般社団法人滋賀県中小企業診断士協会	〒520-0806 大津市打出浜2-1 コラボしが21 4F	077-511-1370
	一般社団法人京都府中小企業診断協会	〒600-8009 京都市下京区四条通室町東入函谷鉦町78 京都経済センター403	075-353-5381
	一般社団法人奈良県中小企業診断士協会	〒630-8217 奈良市橋本町3-1 きらっ都・奈良3階 302号	0742-20-6688
	一般社団法人大阪府中小企業診断協会	〒540-0029 大阪市中央区本町橋2-5 マイドームおおさか7F	06-4792-8992
	一般社団法人兵庫県中小企業診断士協会	〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-8-4 神戸市産業振興センター8F	078-362-6000
	一般社団法人和歌山県中小企業診断協会	〒640-8152 和歌山市十番丁19 Wajima十番丁5F 水城会計事務所内	073-428-8151
中国	一般社団法人鳥取県中小企業診断士協会	〒683-0063 米子市宝勝寺町70	0859-39-1977
	一般社団法人島根県中小企業診断協会	〒690-0048 松江市西嫁島1-4-5 (株)社長室内	0852-28-1600
	一般社団法人岡山県中小企業診断士協会	〒700-0985 岡山市北区厚生町3-1-15 岡山商工会議所5F 501号	086-225-4552
	一般社団法人広島県中小企業診断協会	〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ3F	082-569-7338
	一般社団法人山口県中小企業診断協会	〒753-0074 山口市中央4-5-16 山口県商工会館2F	083-934-3510
四国	一般社団法人徳島県中小企業診断士協会	〒770-0804 徳島市中吉野町3-27-4	088-655-3730
	一般社団法人香川県中小企業診断士協会	〒761-0301 高松市林町2217-15 香川産業頭脳化センター402号	087-814-6456
	一般社団法人愛媛県中小企業診断士協会	〒790-0003 松山市三番町4-8-7 第5越智会計ビル1F	089-961-1640
	一般社団法人高知県中小企業診断協会	〒781-8121 高知市葛島2-7-30 サントノール葛島式番館1102 梅原経営コンサルティング内	090-9552-3334
九州・沖縄	一般社団法人福岡県中小企業診断士協会	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-9-25 アバンダント84-203	092-710-7781
	一般社団法人佐賀県中小企業診断協会	〒840-0826 佐賀市白山1-4-28 佐賀白山ビル3F	0952-28-9060
	一般社団法人長崎県中小企業診断士協会	〒850-0862 長崎市出島町1-43 ながさき出島インキュベータ302	095-832-7011
	一般社団法人熊本県中小企業診断士協会	〒860-0812 熊本市中央区南熊本3-14-3 くまもと大学連携インキュベータ208号室	096-288-6670
	一般社団法人大分県中小企業診断士協会	〒870-0037 大分市東春日町17-20 ソフトパークセンタービル2F	097-538-9123
	一般社団法人宮崎県中小企業診断士協会	〒880-0013 宮崎市松橋2-4-31 宮崎県中小企業会館4F	080-2744-2686
	一般社団法人鹿児島県中小企業診断士協会	〒890-0046 鹿児島市西田2-20-26-401	099-258-1871
	一般社団法人沖縄県中小企業診断士協会	〒901-0152 那覇市宇小禄1831番地1 沖縄産業支援センター3階314号	098-917-0011

### 一般社団法人 中小企業診断協会

〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-11 銀松ビル5F ☎03-3563-0851(代)

<https://www.j-smeca.jp/>



# 11月4日は 中小企業 診断士の日

昭和23年11月4日、我が国の「中小企業診断制度」が発足しました。  
当協会では、中小企業診断士の活動を発信するために、  
11月4日を「中小企業診断士の日」として制定いたしました。